

公益社団法人いわき青年会議所

2025年度 理事長総括

理事長 熊田 哲也

2025年度いわきJC基本方針に沿って総括する。

【会員に寄り添う組織へ】

単年度制や40歳で卒業といった独自の制度があるのは、JCだけではないでしょうか。JCはコロナウイルスによるパンデミックの際にも柔軟に対応し、組織運営や地域をより良くするための運動を展開してきました。この中で培われた対応力や柔軟性は、今後の組織運営においても必ず活かすべき重要な要素です。これは、誰もが活躍できる組織であり続けるためにも必要なことです。幅広い年齢層や多様なバックグラウンドを持つ人々がいわきJCに参加できるようにし、多様な視点を取り入れることで、組織をさらに強化していきましょう。また、誰もが参加しやすく、魅力的な組織を作り上げていくことも重要です。効率的な組織運営のためには、デジタル化が不可欠です。オンライン会議やデジタルツールを活用し、情報共有やコミュニケーションを効率化することで、業務の合理化や透明性の向上を図り、メンバー間の連携を強化していきましょう。最後に、会員にとってのJCの存在意義を見つめ直し、より魅力的な組織を目指しましょう。それが、いわきを愛する同志が自然と集う、進化した組織へと繋がるはずです。

【信頼と共感を育むブランディング】

私は本年度、いわきJCのブランディング一丁目一番地とさせていただきました。市民からいわきJCがどのように思われているのか、関係諸団体と連携するのかでその存在感を発揮できているのか。地域社会の発展と次世代リーダーの育成を使命として活動した実績をSNSを通じてしっかりと発信してきました。しかし、私たちの理念や活動に対して、市民の皆様から十分な共感を得られているのでしょうか。私たちの活動が広く地域社会に認識され、支持されるためには、組織としてのブランド力を強化することが不可欠です。いわき青年会議所の存在意義と価値を明確に伝え、地域社会との信頼関係を一層深めていくことが重要です。活動が地域に根付き、より多くの方々から共感を得るためには、組織としての理念やビジョンをしっかりと定め、一貫した発信を続ける必要があります。たとえ価値のある事業を実施しても、戦略的に発信しなければ、その価値が伝わらず薄れてしまいます。私たちは、いわき青年会議所がこれまで取り組んできた活動を積極的に発信し、その成果を地域にしっかりと伝えていきましょう。組織の実績を可視化し、地域社会からさらなる信頼と共感を得るために、ブランド力を強化していくことが大切です。

【地域の未来を担うリーダーの育成】

「私は、ただJCに所属しているだけ」あなたはそのようなJCライフを送っていませんか？私が言いたいのはただ一言。「もったいない」JCI Missionでも「青年にリーダーシップの開発と成長の機会を提供する」と謳っているように、人材育成こそが地域の未来を担うリーダーの育成に繋がります。JC

は、多種多様な 業種の会員が所属し、多くの人脈を築けるだけでなく、様々な活動を通じて多くの学びを得られる組織です。JC には、成長の機会が星の数ほど存在しています。私は「人は人によって 磨かれる」と考えています。だからこそ、自らその機会を掴み、交流やコミュニケーション を通じて自己成長に繋げていきましょう。所属している会員一人ひとりが「JC だからこそ できること」「JC にしかできないこと」を考え、その意義や活動を深く理解し、所属する会 員から JC ファンを生み出していきましょう。そして、未来のいわきを牽引できるよう、まちの課題解決に取り組むリーダーを育成していきます。

【未来を生きる子どもたちを育む】

デジタル社会が進展する中、子どもたちの学習や生活にもデジタルスキルが深く根付いてきました。今では、簡単に知りたい情報を得られるだけでなく、勉強や遊びのためにも、 デジタルスキルは信頼できるパートナーのような存在になっています。このような時代において、地域社会や未来の子どもたちのためには、デジタルリテラシーの向上や、デジタル スキルを通じた問題解決能力の育成が必要です。デジタルスキルの習得は現代社会でますます 重要になっており、特に地方都市でもデジタルテクノロジーを取り入れることで、地域振興 や人財育成を進めようとする動きが見られます。子どもたちがデジタルスキルを学ぶことで、 論理的思考力や想像力が養われ、将来の職業選択の幅も広がります。それは、彼らが未来を 生き抜くための力となるでしょう。さらに、地域の企業や関係諸団体、学校と連携し、実践 的な学びの場を提供することが重要です。これにより、地域全体の活性化にも繋がり、次世 代のリーダーの育成が可能になります。私たち大人世代も、これまでの経験を活かし、子どもたちに多様な体験や気づきを提供することが求められています。こうして、子どもたちが 健全に成長できる環境を整え、未来のいわきを担う力強い世代を育てていきましょう。

【若者が描くいわきの未来】

いわきの未来を築くためには、次世代を担う若者たちが地域社会に積極的に関わるこ ことが不可欠です。若者は、まだ成長の途上にあるものの、斬新なアイデアや豊かな感性を持ち、 地域の変革者として大きな可能性を秘めています。彼らが自らの手でまちづくりに参加する ことは、地域に新たな息吹を吹き込む力となります。そして、2025 年にはいわき市長選挙 が告示されます。選挙権年齢が 18 歳以上に引き下げられたことで、高校生や若者にとっ ても地域の未来に対して真剣に向き合う絶好の機会となるでしょう。この年は、若者がいわき 市の課題と向き合い、未来を見据えたまちづくりに関心を持つ重要な年です。私たちは「若 者とのまちづくり」に焦点を当て、彼らが自らの手で未来のいわき市を創り上げる力を育む こをを目指します。地域に住む若者が主役となり、私たちも彼らの取り組みを支援していき ます。成長の機会を提供し、若者たちがまちづくりに参画することで、地域を牽引するリー ダーとして活躍できる人財を育成しましょう。

【個性豊かな地域を繋ぐ、まちのシンボル】

まちづくり事業、第 5 回イルミエールいわきでは物価高騰の煽りを受けながらも地域の企業様、関係諸団体様のご支援やご協力をいただき実施することが出来ました。また、新たに四倉地区を仲間に加え、「共創のまちづくり」にふさわしい事業になりました。市民がまちづくりに積極的に参画することで、まちの未来を考え、行動できる環境を整えることが重要です。これにより、地域全体で共通の目標を持

ち、その実現に向けて具体的な行動を取ることができるようになります。市民の皆様がまちづくりの当事者として意識を持つことで、自分たちが住む地域に誇りを感じ、さらにその魅力を高めることができます。それにより、他のどの街にもない、個性あふれる地域を創り上げることができるでしょう。また、それぞれの地域に住む市民の皆様と深く関わりながら、まちのシンボルを深化させ、笑顔の輪を広げていきましょう。こうした取り組みが、未来の世代にも豊かで活力ある地域を引き継ぐことに繋がります。

【有事の際に行政や市民が結束し、困難を乗り越えられる地域へ】

まちづくり委員会が主体となり、3月例会では協定を結んでいる関係諸団体との顔の見える関係性を維持、構築していただきました。本年度、福島県では大きな災害もなく平穏な年になったと思います。しかし、近年は大規模火災、熊による被害といった新たな災害も頻発しています。これまで様々な災害で得た経験や知識が通用しない時代が来ようとしています。私たちは、新たな視点で防災・減災の意識を持続けるとともに、改めて自助・共助の考え方を常に心に留めておくことが重要です。有事の際には率先して行動し、各地域に住む市民や関係諸団体と手を取り合い、利他の精神で困難を乗り越えていきましょう。

【結びに】

いわき青年会議所21年目を迎え、新しいスタート地点に立ちます。これまでの20年の歴史、その時に活躍した人たちの想いが脈々と受け継がれてきました。私たちは、そのバトンを次の世代に受け継ぐ責任があります。「憧れるのをやめましょう」日本全国を見渡せば魅力ある都市はたくさんあることでしょう。しかし、「ほかのどの街にもない、誇りを持てるたった一つのいわき」を実現すれば、どこにも負けない魅力に溢れるまちになるはずです。真剣にまちを想い、市民に寄り添いながらより良いまちを実現していきましょう。そのためには、今までの常識にとらわれない大胆な発想が必要です。Ambition！！恐れず、怯まず、大いに学び、大いに挑戦していきましょう！！

公益社団法人いわき青年会議所

2025 年度 副理事長年次報告

副理事長 草野 祐介

本年度は熊田理事長の掲げる「Ambition！！～常識にとらわれず、大胆な発想で行動しよう！未来を切り開く力になる！～」のスローガンのもと、我々まちづくり委員会は①いわきの特性を活かしたまちづくりの推進②市民主体のまちづくりの推進③災害に強いまちづくりの推進、この3本の運営方針を軸に運動を展開してまいりました。

まず、年末年始から災害組織図の策定を行いそれに基づき3月例会では災害協定先との連携強化、顔の見える関係性の構築を主眼に置き開催しました。いわき市は広域都市であり災害時には協定関係であるいわき市社会福祉協議会様、いわき市様との連携が重要であります。また現役会員においては協定の内容や関係性について知らないメンバーも多くこの事業を通じて知っていただくよい機会であったと考えます。幸いにも本年はいわき市内での大きな災害は起こりませんでしたが、日頃から関係性の構築を継続して行うことで有事の際に能動的に動ける災害に強いまちの一助になると考えます。

また、いわきの特性を活かしたまちづくりの推進・市民主体のまちづくりの推進にあたる第5回イルミエールいわき開催に向けて一年間委員会だけではなくいわき JC として動いてきました。今回で5回目の開催となったイルミエールいわきですが、昨年から継続して若者を巻き込む設えをもって動いてきました。本年は昨年とは違う小学校による吹奏楽の演奏や高校生によるいわきの特色を現したイルミネーションの作成、フォトコンテストの実施など市民も巻き込み運動を行うことが出来ました。また、新たな協力団体との連携もあり地域に対し広がりも見えました。各地域との連携や若者の表現の場の一助になることで今年もいわきを明るく照らす事業となったと考えます。

最後に我々まちづくり委員会が担当した事業は、いわき JC 全体で取り組むことで初めて成功するものであったと考えます。委員会メンバーはもちろん、いわき JC メンバー皆様には感謝の一言しかありません。今年の経験を次年度へ生かし明るいいわきの創造に向けて繋がることを一心に年次報告とさせていただきます。

公益社団法人いわき青年会議所

2025 年度 副理事長年次報告

副理事長 佐藤 稔久

ひとづくり委員会では、「青少年が成長するための機会の創出」「地域を牽引するリーダーの育成」という2つの運動方針のもと、地域の未来を担う青少年のために2つの事業を通じて運動を展開してまいりました。

まず、5月例会並びに小学生の4年生から6年生を対象とした青少年育成事業「ジュニアカーリングフェス～めざせ未来のプログラマー！～」においては、40名以上の小学生が集まり、プログラミングの体験を実施しました。本事業はプログラミングについての知識を習得するだけでなく、状況に合わせ、数ある選択肢の中から自身でプログラムを組み上げていくこと試行錯誤や、チームに分かれて行うことで自身のチーム内が勝つための戦略や相手のストーンの動きを予測すること等、決められたプログラムを作るだけでは養うことができない、論理的思考力や問題解決能力を養うことができたと考えます。そして、8月に開催した8月例会並びに「いわき市長選挙公開討論会 2025～君の意見を未来の市長に届けよう～」では、4年毎に行われるいわき市長選挙において、いわき市民が主権者意識を向上することだけでなく、いわきの今後の未来を担う高校生の意見を市政に届け、よりよい地域へとつなげていくために実施いたしました。高校生の意見を反映するために、事前に市内の高校生へ市政に対する意見などを募集し、また直接意見や想いを届けるために当日参加者も募集しました。高校生が伝えたい想いや要望をどのように市長選立候補者に届ければいいのか、何度か会議を重ね、当日には高校生たちからの質問をしっかりと伝えることができました。高校生たちの真摯な想いもあいまって、市長選立候補者の方々も市に対する様々な政策や考えを熱く語っていただくことができました。その様子については動画で公開を行い、広く市民に対して発信することができ、今後行われる公開討論会の参考にもなると考えます。

結びに、事業構築にあたり委員長をはじめとする委員会のスタッフや委員会のメンバーの協力、そして事業実施の際には多くの会員のおかげで無事に事業を実施することができました。本当にありがとうございました。青少年事業は今後のいわきを担う青少年に対して働きかける重要なもので、いわき青年会議所全体で取り組んでいかなければならないものです。次年度以降も、会全体としていわきの明るい未来の為に運動発信を続けていくことを願い、本年度の年次報告とさせていただきます。

公益社団法人いわき青年会議所

2025 年度 副理事長年次報告

副理事長 大和田 勝史

本年、総務委員会と拡大推進アカデミー特別室の担当副理事長として、一年間会務を務めてきました。二つの委員会、室を担当することができ、とても光栄に思っております。

総務委員会においては、新年会、4月例会、7月例会、卒業式と4つの事業及び総務の会務が主な職務でした。新年会では、会場が結婚式場であったことから、スタイリッシュさを追求した事業となりました。具体的には、鏡割りの廃止、スパークリングワインでの乾杯など新しさを追求することができたと思います。修正点としては、来賓の方々が遅れて参加されたことから、時間の配分が難しく、終了時間が伸びてしまった点が挙げられます。人財の配置など事前に対応することでもっとうまく対応ができたはずですので、こちら、次年度に引き継いでいきます。

4月例会では、愛知よりブロック会長、基金の委員長を歴任した曾根香奈子先輩をお招きし、JC に対する疑問や不明点を解消する例会を実施しました。はじめはアクティブではなかった自身が人との結びつきの中で、成長し、ブロック会長や基金の委員長を務めるようになった経験に基づく公演は多くのメンバーに響く内容であったと思いました。JC だからこそ出会える人との交流から、たくさんの学びにつながりました。

7月例会では、ブロック大会での移動例会となりました。ブロックの事業を見るだけでなく、浪江の地が今、どのようなになっているのかを体験することで多くの学びになったのではないかと思います。多くのメンバーを参加できれば、さらにより事業になったと考えます。

卒業式では、卒業生を盛大にお祝いすることに焦点を当て事業を構築しました。卒業生が少なかったことから、時間とお終わることができたことと一人ひとりしっかりと見送ることができた点がよかったと考えます。しかしながら、OB の参加が非常に少なく、例年以上に小さな卒業式となってしまったことが悔やまれます。たくさんの OB をお招きするためにも、事前に案内を流すことが今後も大事になってきます。

拡大推進アカデミー特別室では、例年に加え、研修を開くことによって、メンバーの成長と会員拡大につなげる狙いがありました。全国各地から、人を招き、語らった経験は今後、JC を続けていくうえで、たくさんの学びにつながったと考えます。会員拡大に研修を加えることは次年度にも引き継いでいきます。

会員拡大は結果、15 人の加入となりました。その中で、3 名のメンバーが次年度の理事につながりました。研修から学びがあった結果だと思えます。

多くの協力から、総務、拡大と二部門で意識を変える運動を行えたことを感謝申し上げ、新しく始まる次年度にうまくつなげていければと思います。

公益社団法人いわき青年会議所

2025 年度 専務理事年次報告

専務理事 鈴木 孝始

本年度、熊田理事長が掲げられた基本理念『故郷を想う人財による持続可能ないわきの創造』、並びにスローガン『Ambition!!～常識にとらわれず、大胆な発想で行動しよう！未来を切り拓く力になる！～』のもと、組織運営の要諦たる事務局・財政局、そして広報室という枢要なる職責を拝命し、本会議所の業務執行を司る専務理事としての一年を務めさせていただきました。

歴史ある本会議所の礎を築かれた諸先輩方が惜しまれつつも卒業を迎えられ、入会間もない瑞々しい感性を備えた会員が主座を担う組織の転換期において、私のような未熟な者がこの重責を全うし得るのか、常に自省の念と畏怖を抱きながら、職務を遂行いたしました。しかしながら、いかなる混迷の情勢にあっても揺らぐことのない信念を持ち、我々を力強く先導してくださった熊田理事長の卓越した指導力、そしてその高潔な志に呼応し、故郷いわきの未来のために無私の精神で尽力された会員の皆様の献身的な活動こそが、停滞を許さぬ組織の原動力であったと確信しております。

専務理事としての私の役割は、理事長が示される理想を具現化すべく、組織の根幹を支える事務方に徹することに他なりません。経験の浅いメンバーが存分にその才を揮い、躍動できる環境をいかに整備すべきかという命題に対し、私は裏方として組織の土壌を維持・管理することに微力を尽くしてまいりました。

まずは、公益法人としての厳格な規律を遵守するためのガバナンス強化や、持続可能な運営を担保するための諸規則の精査、さらには意思決定の迅速化を企図した会議運営の見直しなど、理事長が提唱された「大胆な発想」を支えるための盤石な基盤構築に努めてまいりました。

つぎに、財務管理という組織の命綱においても、会員の皆様から託された大切な会費をいかに意義深い運動へと昇華させるか、公益事業比率の厳守や厳正な予算執行を通じて誠実に向き合ってまいりました。そして、組織の価値を広く発信する広報室においては、SNS を基軸とした戦略的な広報活動を展開いたしました。各委員会が情熱を注いだ事業や活動の軌跡を、適時かつ精緻に発信することで、対外的な共感と信頼を醸成する一助となるべく歩みを進めてまいりました。

これらの過程においては、私の不徳により会員の皆様にご不便をおかけした場面も多々ございましたが、常に不撓不屈の精神で運動に邁進される皆様の英知に、私自身が幾度となく救われ、改めて組織を支えることの真の意義を学ばせていただいた次第です。

会員減少という構造的な課題を抱えながらも、外部諸団体との連携を深め、より広範な運動展開へと果敢に挑戦される会員の皆様の勇姿は、まさに「未来を切り拓く力」そのものであり、そのひたむきな熱量に触れるたび、職責の重さと光栄を深く噛み締めておりました。

いかなる社会情勢の変化にあっても「今、なすべきこと」を峻烈に決断される理事長のもと、影の支えが表舞台の輝きに繋がるという組織運営の本質を学ばせていただいたことは、私にとって生涯の財産でございます。

結びに、至らぬ私を時に厳しく、時に温かく支えてくださったすべての会員の皆様、そして未熟な私を信頼し、一年間という得難い機会を与えてくださった熊田理事長に、深甚なる感謝と敬意を捧げます。この職務を通じて得た数多の学びを糧とし、皆様と共に愛する故郷の永続的な発展に尽くしていくことをお誓い申し上げ、専務理事としての年間報告とさせていただきます。

一年間、誠にありがとうございました。

2025年度 委員会年間活動報告書

■グループ名	総務拡大グループ		■副理事長	大和田 勝史	
■委員会名	拡大推進アカデミー特別室		■委員長	里見 法道	
■副委員長	四家 凌一		■副委員長	****	
■運営幹事	****		■会計幹事	****	
■委員	丹野 靖之	草野 大輔	薄葉 洋行	馬上 幸輔	荒川 桃花
	植竹 宏介	吉田 郁弥	大樂 良太	柳下祥太郎	遠藤 夏美
	小野 光貴	遠藤 玄貴	坂本 和也	吉田 行伸	高木 信幸
■委員会の設置背景 ①メンバーの減少が続いていることから、我々のまちにJC運動で好循環をもたらすことが困難な状況にあります。今後もJC運動を展開していくためにも、JCの理念に共感する多くの同志を集め続けていく必要があります。 ②毎年コンスタントに10人以上の新入会員が入会してきますが、退会やスリープ会員が絶えない現状があります。その原因はJCという団体がそもそも何をする団体なのか分からず続けてしまう点にあると考え、新入会員を中心に学びを得る場を創る必要があります。					
■委員会の目的 ①いわきJCの理念を叶えるために、JCの考え方や理念に共感した同志を集めることを目的とします。 ②多くの学びから、積極的に行動を起こすことのできる即戦力の育成。					
■委員会基本方針 ① 他委員会と連携した会員拡大活動、拡大につながる情報のとりまとめ ② 新入会員オリエンテーションの企画・運営 ③ 会員拡大につながる情報の収集と共有および拡大活動 ④ 社業に繋がる活動					
■開催事業					
日時	[事業名] 公益社団法人いわき青年会議所2025年度会員拡大計画				
2025年1月 ～ 2025年9月	[開催場所]	無し			
	[事業種別]	他1	[公益性]	無し	[対象者] いわきJCOB会、その他OB・OG、各関係団体、いわき市民、日本青年会議所：組織グループ、福島ブロック協議会：組織連携推進会議
	[事業趣旨]	【背景】 会員の減少が続いている現状から、組織運営が困難になっています。理念を達成するためにも、まちの青年に我々の考えを理解してもらうことが課題であり、同志を集める運動が必要です。 【目的】 JCが提供できる機会の重要性を伝え、志を同じくする同志が集う組織を創ることを目的とします。			
	[事業内容]	理念を広げるために、会員の拡大を行います。従来の手法に加え、JCに関わらずビジネスにも生きてくる研修や、多方面で活躍なさっている先輩や本会会員と出会う機会を創出します。そこから集まりやすい環境、我々の運動を広げやすい状況を創ることで新たな会員の入会につなげます。多様性が求められる現在だからこそ、立ち振る舞いを、研修を通じ改め、女性会員の多数の入会を目指します。会員全員拡大のため定期的に各委員会へ出向き、入会候補者の生の情報を獲得し入会につなげます。本年度は、各種団体の交流会への参加、いわきJCのセミナー開催の広報を行い、会員の拡大へ繋げます。			
日時	[事業名] 公益社団法人いわき青年会議所2025年度11月例会「生産者と考えるいわきの未来」				
2025年11月7日(金) 18:30～21:02	[開催場所]	いわき市生涯学習プラザ大会議室(1)			
	[事業種別]	他2	[公益性]	無し	[対象者] いわきJC正会員、特別会員
	[背景、目的]	【背景】 次年度に向け、組織力の強化には新入会員の活躍は不可欠です。しかし、新入会員や歴の浅い会員は既存会員との人間関係が希薄であるため、積極的にJC活動に参加しづらい傾向があります。会員同志の関係性を深めるため、交流の場を自ら創出する必要があります。 【目的】 対外：歴の長い会員だけでなく新入会員にも活躍の場があることを外部にアピールすること。 対内：仲間のことをより深掘りし知ることができ、翌年以降の活動に向けて大きな力とすること。			
	[事業内容]	本例会は、いわきの地域資源の価値と、それを支える生産者の想いを直接学ぶ貴重な機会となりました。生産者の声を通じ、地域の魅力が十分に伝えられていない課題を自分事として捉え、発信の重要性を再認識しました。これは農業に限らず、会員各自の事業にも通じる学びとなりました。本例会で得た学び、地域資源の価値に気づき、その価値を伝える難しさと重要性を認識し、地域課題を自分ごととして考える姿勢は、今後のJC運動に間違いなく活かされます。そして、新入会員を含む全メンバーが今回の気づきを次世代へとつなぎ、次年度の体制にも確実に引き継いでいくことで、地域に寄り添い、地域と共に歩む青年会議所として、さらなる成長を遂げることを期待しております。			
日時	[事業名] 公益社団法人いわき青年会議所2025年度会員研修計画				
	[開催場所]	無し			
	[事業種別]	他2	[公益性]	無し	[対象者] JCIいわき正会員、入会候補者
	[事業趣旨]	【背景】 入会を避ける青年が多いだけでなく、入会をしても出席をしないまま退会につながる問題の原因は、JCについて知る機会がないことがあげられます。そのため、JCについて学びの場を創る必要があります。			

2023年7月14日		【目的】 対外:JCについて知る機会が増えることで、認知度を高めるだけでなく、入会につなげること。 対内:JCについて理解を高め、積極的に行動を起こすことのできる即戦力となること。 [事業内容] JCプログラム、JCプロトコル、活躍されている会員と出会う座談会(本会より派遣)、協賛金の集め方、事業広報のやり方など、積極的に行動を起こすことのできる人財となるための研修を行います。また、新入会員候補者に参加してもらうことで入会に近づけます。女性が集まりやすい会場、環境を作ることによって多くの女性会員の入会に繋がります。
■年間計画の実現と成果		
会員拡大計画: 目標値30名に対して15名と当初目標には大きく届かず、委員会としては決して納得いく結果ではありませんでした。しかし、入会していただいた新入会員から次年度理事者が複数名排出することができ、次年度以降に繋がるメンバーを揃えることができました。入会候補者に関しては150名以上と、とても多くの方を上げることができたので、ここから次年度以降入会に繋がる方が出てくるものと考えます。 11月例会開催計画: 例年同様、新入会員を中心に設えた例会を開催しました。「生産者と考えるいわきの未来」というタイトルで開催をし、いわきの地域資源の価値と、それを支える生産者の想いを直接学ぶ貴重な機会となりました。新入会員や既存会員の参加率については決して納得いく結果ではありませんでしたが、講師やオブザーバーの方に対してもJCについてより知ってもらう事ができ、新入会員に活躍の場があるという事をアピールできました。 会員研修計画: JC、議案書、スピーチ等、多岐にわたる内容の研修を複数回開催することができました。講師には大和田副理事長をはじめ、本会ならびにOBの皆様をお招きし、充実した研修内容を実施することができました。これらの研修を通じて、JCの理念や活動意義に対する理解が一層深まり、会員一人ひとりが主体的に行動しようとする意識が、会全体に醸成されたと考えます。その結果、次年度の組織図(案)上に新入会員の中から多くの役職者を輩出することができました。 また、本研修は入会候補者や市役所職員等の外部の方々に対しても、JCの魅力や活動内容を伝える貴重な機会となりました。		
■次年度以降への引継ぎ事項		
会員拡大計画: 会員拡大活動は、担当委員会のみで進めていくことが難しく、「全員拡大」を前提とした組織全体の取り組みであるという認識を共有することが重要です。会員一人ひとりが会員拡大の当事者であるという自覚を持ち、日常のあらゆる機会を通じてJCの理念を伝え、理解していただく場を増やしていく必要があります。他団体との交流や仕事上のつながりなど、多様な接点を活かしながら、継続的な情報発信と関係構築を行っていくことが求められます。 拡大対象者については、単年度で成果を求めるのではなく、年度をまたいで継続的にコンタクトを図ることが大切です。個人の状況やタイミングによって入会の意思が固まる時期は異なるため、継続的な関係づくりを意識しながら、候補者の洗い出しと情報の共有を引き続き行っていくことが重要だと考えます。また、地域ごとの会員構成や職種の偏りを把握し、どの職種の人材が不足しているのか、バランスの取れた人材発掘を意識することで、より持続可能な組織づくりに繋がると考えます。 会員拡大は単なる人数の増加を目的とするものではなく、入会後の定着や育成までを含めた一連の活動として位置付ける必要があります。理念への共感を重視した質の高い会員拡大を行い、入会後は定期的な面談や懇親の機会を設けることで、孤立を防ぎ、JC活動への理解と参加意欲を高めていくことが大切です。 また、市民から選ばれ、「入会したい」「友人を紹介したい」と思っただけの団体であること自体が、会員拡大に大きく寄与します。明るく豊かな社会を築き上げるといったJCの目的を常に意識し、魅力ある運動を継続して展開していく必要があります。 理事会や例会においても、拡大状況の報告のみで終わらせるのではなく、その場で双方向の意見交換ができる時間を設けることで、会員拡大への意識共有と行動の促進に繋がっていくことが重要だと考えます。本年度は、他委員会のメンバーやOBの皆様など、多くの方々のご協力をいただきながら勧誘活動を進めることができました。今後もこうしたつながりを大切に、会員拡大を「特別な活動」ではなく「日常の運動」として組織により定着させ、次代を担う人材の発掘と育成へとつなげていくことを期待します。		
11月例会開催計画: 本年度の11月例会は新入会員が中心となって設える例会として実施され、多くのメンバーから「会員同士の交流ができた」「普段関わりの少ないメンバーと話す機会になった」といった前向きな評価を得ることができました。例会を通じて会員間の絆や結束力が生まれたことは、単年度にとどまらず、これからの組織運営につながる重要な要素であると感じています。 例会の成功に向けて、年度の早い段階から新入会員に対し「年末には自分たちが中心となって例会を設える」という意識を持ってもらうことが非常に重要だと感じました。入会直後から当事者意識を持ち、同期同士で検討や準備を重ねていくことで、自然と横のつながりが強化されます。その結果、例会や事業への参加意欲が高まり、いわゆるスリープ会員を減らすことにもつながると考えます。 本年度の例会内容は、どちらかといえば真面目な構成となりましたが、次年度においては出席率の低い会員も参加しやすく、新入会員と気軽に交流ができるような内容を意識してほしいと考えます。そのために、新入会員自身のアイデアや希望を最大限尊重しつつ、実現に向けて委員会スタッフがしっかりとバックアップできる体制を整えていただきたいです。 新入会員にどこまでを任せ、どこをフォローしていくかという点については一律に決めるのではなく、年度初めから新入会員一人ひとりの特性や意欲、経験値を見極めながら柔軟に判断していく必要があると考えます。適切なサポートとバランスを意識することで、新入会員の成長と組織の活性化の双方につながる例会運営を実現してください。		
会員研修計画: 研修を通じて、会員一人ひとりがJC活動の意義や目的をより深く理解することができたと感じています。受け身ではなく「自ら考え、行動する」という主体性が会全体に醸成されました。また、これらの研修は現役会員だけでなく、入会候補者や市役所職員など外部の方々にも参加いただく機会があり、JCの魅力や活動内容を伝える貴重な場となりました。会員育成と同時に、対外的な理解促進や入会促進の一助となった点も、今後につなげていきたいポイントだと考えます。 一方で運営面においては、研修の開催頻度について改善の余地があったと感じています。次年度の委員会の日程をあらかじめ決めて、委員会開催の際には必ず研修も併せて実施するなど、より定期的かつ習慣化した形で行うことで、学びの定着や参加率の向上に繋がるのではないかと考えます。 さらに、研修計画そのものの運営を新入会員に任せることも検討が必要だと思います。研修内容の企画や進行を新入会員自身が担うことで、11月例会の準備を含め、JC活動をより「自分事」として捉えられるようになります。育成される立場から、育成を担う立場へと意識が変化することで、組織全体の成長スピードも加速します。また、委員長にかかる負担を軽減するという効果もあると考えますので、より良い方法 ■委員長所見		

会員拡大計画:

本年度の会員拡大は、数値目標30名に対し15名の入会という結果となり、委員長として目標未達であったことを重く受け止めています。一方で、入会していただいた新入会員の中から次年度理事者が複数名誕生したことは、単なる人数では測れない大きな成果であり、次につながる拡大が一定程度実現できた1年であったとも感じています。

また、大和田副理事長の尽力により150名を超える入会候補者をリストアップできたことは、いわきJCとして大きな財産です。単年度では結果に結びつかなくとも、この候補者一人ひとりの関係性を次年度以降につないでいくことで、継続的な拡大につながる可能性は十分にあると考えます。会員拡大は短期的な成果だけでなく、中長期的な視点で取り組むべき運動であり、引き続き全員拡大の意識を組織全体で共有していくことが不可欠です。

委員会だけで完結させるのではなく、全員が日常の中でJCの理念や魅力を伝える存在となり、地域の青年から「入会したい」「紹介したい」と思われる団体であり続けることが、結果として最も強い会員拡大につながると考えます。

11月例会開催計画:

本年度の11月例会は、新入会員が中心となって設える例会として実施されました。参加率という点では課題が残りましたが、「生産者と考えられるいわきの未来」というテーマのもと、地域資源の価値や生産者の想いを直接学ぶ機会を創出できたことは、大きな意義があったと感じています。

特に、新入会員が主体となって準備・運営に携わったことで、JCの中で自分が活躍できる場がある、という実感を持ってもらえた点は、今後の人財の定着や成長に大きく寄与すると考えます。また、講師やオブザーバーの方々に対しても、JCの活動内容や可能性を伝えることができ、対外的なPRの場としても価値のある例会となりました。

次年度以降は、より多くの会員が参加しやすく、新入会員と自然に交流できるような工夫が求められます。そのためにも、新入会員のアイデアを尊重しつつ、委員会として早期からサポート体制を整え、「任せる」と「支える」のバランスを意識し、新入会員個人に大きな負担が掛かることのない準備・運営を期待しています。

会員研修計画:

会員研修においては、JCの理念、議案書、スピーチなど、基礎から実践まで幅広い内容を実施することができました。講師としてご協力いただいた副理事長・本会・OBの皆様のおかげで、机上の学びにとどまらない、実践的で深みのある研修となったと感じています。

これらの研修を通じて、会員一人ひとりの理解が深まり、自ら考え行動するという主体性が会全体に広がったことは、大きな成果です。

個人的にも楽しく参加させていただいていたので、研修の開催頻度や運営方法については見直しを計っていただきたいと思います。そして、より定期的かつ習慣化された研修を実施していただき、学びの定着と様々な設えへの参加率向上に繋げていただきたいと思います。

この1年間、室長として至らぬ点も多く、理事長をはじめ、副理事長、専務、そして委員会メンバーの皆様には多大なるご迷惑をお掛けしました。思うように成果を出せなかった場面もあり、いわきJCに十分な貢献ができなかったこと、ひいてはいわきの未来に対して思い描いた成果を残せなかったことを、室長として大変心苦しく感じております。

しかしながら、本年度の活動を通じて、多くの仲間を支えられながら委員会運営ができたこと、そして新入会員がJCの中で確かな一歩を踏み出してくれたことは、何よりの財産であり、次年度以降につながる成果であったと感じています。

本年度をもって私は卒業となり、これからは皆様のご活躍を身近で見守ることはできませんが、いわきJCがこれからも地域のため、そしていわきの未来のために力強く歩み続けていくことを心より願っております。特に、本年度入会した新入会員の皆様が、今後JCの中で大きく成長

2025年度 委員会年間活動報告書

■グループ名	広報推進室	■専務理事	鈴木 孝始	■専務理事	松本 進
■委員会名	広報推進室		■委員長	門馬 円香	
■副委員長	鈴木 祥子		■副委員長		
■運営幹事			■会計幹事		
■委員	小野 貴弘	松崎 和磨	高宮 暢昭	熊田 舞弥	高木 利記
	佐藤 辰哉	遠藤 昌希	四家 麻未		

■委員会の設置背景

①いわきJCは地域社会の発展と次世代リーダーの育成を使命とし運動・活動を行っていますが、理念や活動に対して、市民の皆様から十分な共感を得られていません。いわきJCの理念・活動を積極的に発信し、その成果を地域にしっかりと伝える必要があります。

②経験の少ない会員の割合が増加したことにより、JCの理念に対する理解の低下が懸念されます。会員がいわきJCに対して誇りや愛着を持ち、理念に共感してもらえるよう、会員に広く伝える必要があります。

■委員会の目的

①いわきJCを広報し、全メンバーで青年会議所運動を推進していくことで共感される組織を作り、いわき市に対して一貫したブランドイメージを提供することを目的とします。

②JCの理念に対する理解を深めるため、委員会等の活動の様子を広く会員に伝え、会員一人ひとりがJC運動や活動を共感することで、組織としてのブランド力を強化することを目的とします。

■委員会基本方針

① いわき JC ホームページ・公式 SNS の運用およびシステム管理

② 活動における情報収集と戦略的発信

③ スポまちいわきのシステム管理

④ 各メディアへの取材依頼と情報提供

⑤ 会員拡大につながる情報の収集と拡大推進アカデミー特別室と連帯した拡大活動の推進

■開催事業

日 時	[事業名] 公益社団法人いわき青年会議所2025年度広報推進計画					
2025年1月1日 ～ 2025年12月31日	[開催場所]	無				
	[事業種別]	他1	[公益性]	無	[対象者]	いわき市民
	[事業趣旨]	①いわきJCの理念やこれまでの活動、地域にもたらしてきた価値を戦略的かつ継続的に発信することで、市民の皆様には「いわきJCとはどんな団体なのか」を認識していただくことを目的としました。 ②、地域社会との関係性を意識した広報を推進することで、認知度の向上を信頼関係の深化へとつなげ、いわきJCの運動基盤をより強固なものとするを目的としました。				
	[事業内容]	いわきJCの理念や活動内容、地域にもたらしている価値を市民の皆様にはわかりやすく伝えるため、写真だけでなく動画を積極的に活用した広報発信を行わせていただきました。例会や対外事業の様子を写真および短尺動画として記録し、SNS等の媒体特性に応じた編集・発信を行うことで、活動の臨場感や想いがより伝わる情報発信を行いました。動画を活用したことで、いわきJCの活動背景やメンバーの想いを可視化し、市民の皆様にとって「身近で信頼できる団体」として認識されるような発信をしました。				
日 時	[事業名] 公益社団法人いわき青年会議所2025年度広報推進計画(ブランディングについて)					
2025年5月1日 ～ 2025年10月31日	[開催場所]	無				
	[事業種別]	他1	[公益性]	無	[対象者]	JCIいわき正会員、いわき市民
	[事業趣旨]	いわきJCが魅力ある団体となるために、いわき市民の皆様といわきJCを繋ぐシンボルを創出することを目的としました。				
	[事業内容]	市民の皆様から、「いわきJCと言えば、〇〇」と認識されるために、いわきJCのアイコンとなるマスコットキャラクターを作らせていただきました。いわきJCをより市民の皆様にも身近に感じてもらえるよう、作成したキャラクターを公式HP、SNS等での投稿記事に使用し、発信を行いました。また、キャラクターのステッカーも作成し、市民の皆様へ配布いたしました。さらに、キャラクターを誰でも使用できるよう、公式HPに素材ダウンロードページも作成し、いわきJCの認知度向上に努めました。				
日 時	[事業名] 公益社団法人いわき青年会議所2025年度2月例会開催計画					
2025年2月14日	[開催場所]	いわき市文化センター				
	[事業種別]	他2	[公益性]	無	[対象者]	JCIいわき正会員、特別会員
	[事業趣旨]	情報発信の重要性を理解し、積極性をもって広報を行う人材となることを目的としました。				

	[事業内容]	講師をお招きし、広報活動とは何か、広報の重要性、広報の種類・取り組み方などに関する内容について講演いただきました。講演の後、グループワークにて実際に動画を作成し、座学形式で学ぶだけでなく、実際に広報のやり方などを実践したことで、より広報についての理解を深めることができる事業を開催しました。		
日 時	[事業名]	公益社団法人いわき青年会議所2025年度スポまっちいわき推進計画		
2025年3月1日 ～ 2025年9月30日	[開催場所]	無		
	[事業種別]	公1	[公益性]	無
	[事業趣旨]	スポまっちサイトの登録チーム数や利用者が停滞していたことから、当サイトがいわき市のスポーツに関するポータルサイトとして今後も継続していくか判断するため、本年度はサイトを継続し利活用の状況を把握することを目的としました。		
	[事業内容]	いわきJC公式HP・SNSでの「スポまっちいわき」公式HPへのリンクの投稿を引き続き行いました。本サイトの閲覧数も一定数の閲覧があったことから、次年度以降も継続して運用していけるよう、引き継ぎ先を選定いたしました。		

■ 年間計画の実現と成果

広報推進計画：

いわきJCの活動のようすを写真だけでなく動画を積極的に活用した広報発信を行ったことで、活動の臨場感やメンバーの想いがより伝わる情報発信を行うことができました。

広報推進計画（ブランディングについて）：

会員からのアンケートをもとに、いわきJCのマスコットキャラクターを制作しました。キャラクターのステッカーも制作し、対外事業の際に配布し、認知度向上に努めました。また、制作したキャラクターを著作権フリーにし、誰でもキャラクターを使用できるよう、いわきJCのHPに、素材ダウンロードリンク先を掲載し、アピールすることができました。

2月例会開催計画：

アンケート結果から、会員が広報活動についての理解を深め、社業においても広報を意識する姿勢が見られるようになったことが確認されました。これにより、本例会が広報活動に関する知識や意識の向上に寄与したことがうかがえます。今後のJC活動においても、今回得られた知見が積極的な広報活動に活かされることが期待されます。

スポまっちいわき推進計画：

いわきJC公式HPで「スポまっちいわき」公式HPへのリンクの掲載を引き続き行いました。定期的にサイトに関する発信などは計画通り進めることができませんでしたが、サイト閲覧数は一定数あったことから、次年度以降も継続して運用していけるよう、引継ぎ先の選定も行いました。

■ 次年度以降へに引継ぎ事項

広報推進計画：

今年度は、写真だけでなく、動画も活用して発信を行い、次年度も継続して効果的な発信をしていただきたいと思います。しかし、発信する際、一人の担当者の発信となり、発信回数が目標としていた週2回以上の発信をすることができなかったため、次年度は、各委員会、室、事務局財務局が持ち回りで投稿を担当し、発信を行うことで発信回数が増えることが考えられることから、次年度は、全員で広報を担当していただきたいと思います。

広報推進計画（ブランディング）：

本年度は、いわきJCの認知度向上を目的としてキャラクターを制作し、広報活動に活用してまいりました。一定の成果は得られたものの、運用面・計画面において課題も見受けられたことから、次年度においては次の3点を重点的に引き継ぎ、さらなる効果的な活用を図っていただきたいと思います。①キャラクターの活用について、事前の計画が十分でなかったため、活用機会が限定的となりました。次年度は、対外事業担当委員会と事前に打ち合わせを行い、対外事業においてキャラクターを活用した広報・アピールを行うことが重要です。また、会員向け認知度向上を目的としたLINEスタンプについては未作成となったため、次年度において早期に作成することが必要です。②キャラクターの画像管理や使用方法について明確なルールがなく、属人的な運用となっていました。次年度は、使用ルールを整備し、統一性を持った運用を行うことが重要です。③キャラクターを活用した広報発信に継続性が欠けていたため、次年度はSNS等において計画的かつ継続的な広報を行うことが重要です。また、本年度作成したステッカーについては、次年度の対外事業において積極的に配布し、市民への認知度向上につなげていただきたいと思います。

2月例会開催計画：

本例会を通じて、広報とは何か、情報発信の方法について学ぶことができたということがアンケート結果から読み取れ、例会を通じて、広報の重要性を認識することができ、JC活動だけでなく、社業にも活かすことができる例会だったと考えます。例会と通して学んでいたことを今後の広報活動の基礎にしていいただき、積極的な情報発信を行っていただきたいと思います。また、JCとして、今後も情報発信に繋がる活動として、様々なテーマを検討し、会員それぞれが情報発信を行い、組織力を高めていく場を設えていく必要があると考えます。

スポまっちいわき推進計画：

次年度引継ぎ団体へのスムーズな引継ぎを行い、スポーツ団体のポータルサイトとして活用・公共施設の利用頻度の向上ができるよう、サポートを行う必要があると考えます。また、引継ぎ団体への引継ぎが完了するまでの間は、引き続き情報発信を行い、スポまっちいわきを案内していくことが重要だと考えます。

■ 委員長所見

広報推進計画(ブランディング含む):

本年度、いわきJCとして初めてマスコットキャラクターを制作するという新たな挑戦を行ったことは、いわきJCの発信力を高める上で大きな一歩となりました。制作過程では未知の要素も多くありましたが、完成後には市民の皆様や関係団体から好意的な評価を得られ、キャラクターが持つ親和性と発信力の高さを実感する結果となりました。この成果は、単なる話題性に留まるものではなく、いわきJCの理念や事業価値を市民にわかりやすく伝える象徴として、継続的に活用することでさらなる効果が期待できるものであります。キャラクターの認知が広がるほど、その背後にある私たちの運動・事業への共感や参加意欲が高まる好循環が生まれると考えます。今後は、キャラクターを一過性の取り組みとせず、継続的な広報計画や他団体との連携などを通じて、いわきJCの魅力発信の核として育てていくことが重要です。本年度の取り組みで得られた評価と知見を確実に次年度へと引き継ぎ、より多くの市民に愛され、地域に根差した存在となるよう、今後も継続した活用を図っていただきたいと期待しております。

2月例会開催計画:

本例会は、これまでいわきJCにおいて広報が十分に機能していなかったという課題認識のもと、広報の重要性を再確認するとともに、効果的な情報発信の考え方や手法を学ぶことを目的として開催しました。講師の方との事前協議を通じて、いわきJCの広報において特に不足している点に焦点を当てた講演内容としたことで、課題意識を明確に持ちながら学びを深めることができました。また、座学だけでなく実践編を取り入れ、各委員会・室ごとにグループワークを行ったことで、広報を「自分ごと」として捉える機会となり、それぞれの立場から広報の重要性を再認識していただけた点は、本例会の大きな成果であると考えます。一方で、広報の重要性について一定の理解と共通認識は図れたものの、今後はよりいわきJCの実情や運動に即した具体的な広報手法や運用方法を学ぶ機会を設けることで、学びを実践へと昇華させていく必要があります。次回以降は、よりJCに寄り添った内容とすることで、組織全体としての広報力向上につながる例会となることを期待しています。

スポまっちいわき推進計画:

本年度は、当初目標として掲げていたスポまっちを通じた各団体の活性化や、公共施設の利用促進といった有効活用を十分に実現するには至りませんでした。その要因として、サイト運営を中心とした取り組みに留まり、各団体や大会への訪問など、直接的な交流の機会が不足していた点が挙げられます。スポまっちを通じて各団体の活性化を図るためには、単なる情報発信の場として運営するだけでなく、実際に現場へ足を運び、顔の見える関係性を構築することが重要であると考えられるため、次年度引継ぎ団体へ、内容を引継ぎ、引継ぎ完了までサポートを行うことで、今後も継続してサイトが運用していけることを期待しています。

2025年度 委員会年間活動報告書

■グループ名	総務拡大グループ		■副理事長	大和田 勝史		
■委員会名	総務委員会			■委員長	庄司 雄太	
■副委員長	吉田 大将			■副委員長	佐藤 亮介	
■運営幹事	渡辺 啓一郎			■会計幹事	四家 麻未	
■委員	松崎 和磨	小野 貴弘	栗林 美沙	滝口 敦	一ノ渡 崇弘	
	吉田 寛和	得能 崇晃				
■委員会の設置背景 2025年度も我々が運動を推進するために、多様な会議や事業が行われます。いわきJCが、運動を展開し、会員が動きやすい組織であり続けるためには、業務の効率化や透明性の向上を図り、円滑な運営を行い組織力を強化する委員会を設置する必要があります。						
■委員会の目的 円滑な組織運営を行いながら、いわきJCの組織力を高めると共に、誰もが参加しやすく組織の運営状況を把握できる組織体制の確立を目的とします。						
■委員会基本方針 ① 新年会の企画・運営 ② 卒業式・感謝ナイトの企画・運営 ③ 事務局と連携したいわきJCの総会および諸会議の運営 ④ 会員の資質及び能力の向上や会員起業の発展に寄与する事業の企画・運営 ⑤ 社業につながる活動 ⑥ 拡大推進アカデミー特別室に連帯し、新入会員のオリエンテーションの企画・運営を助勢 ⑦ 拡大推進アカデミー特別室に連帯し、会員向けセミナー、研修等の企画・運営を助勢 ⑧ 会員拡大につながる情報の収集と拡大推進アカデミー特別室と連帯した拡大活動の推進						
■開催事業						
日時	[事業名] 公益社団法人いわき青年会議所2025年度新年会					
2025年2月1日	[開催場所]	パレスいわや				
	[事業種別]	他1	[公益性]	無	[対象者]	関係諸団体、いわきJC正会員、特別会員
	[事業趣旨]	①2025年度の組織体制と運動方針を発信し、関係諸団体にJC運動の理解を深めて頂くことで、円滑な連携をとることが可能となります。 ②関係諸団体との交流を図り、より良い関係を深めることで、連携の取れたJC運動に繋がります。				
	[事業内容]	いわきJCの新体制をお披露目し、関係諸団体にご理解とご協力を得られる新年会の運営を行います。 また、各関係団体の皆さまに日頃の感謝の意を伝え、本年度も変わらないご支援とご協力を賜るため、懇親会を実施いたします。				
日時	[事業名] 公益社団法人いわき青年会議所2025年度4月例会開催計画					
2025年4月23日	[開催場所]	いわき市生涯学習プラザ				
	[事業種別]	他2	[公益性]	無	[対象者]	いわきJC正会員、特別会員
	[事業趣旨]	目的をもって運動を行うことのできる人財になるために、青年会議所への理解を深め、運動への積極的に参加する意識の向上を目的とします。				
	[事業内容]	講師のお話で青年会議所への理解を深めていただき、得た青年会議所への理解をもとに、いわき青年会議所の運動を次世代に繋いでいくためにはどうしたらいいのかをリアルタイムの質問形式により話し合い、JCやまちづくりへの理解を深めます。				
日時	[事業名] 公益社団法人いわき青年会議所2025年度7月例会開催計画					
	[開催場所]	いわき市生涯学習プラザ				
	[事業種別]	他2	[公益性]	無	[対象者]	いわきJC正会員、特別会員
	[事業趣旨]					
		福島ブロック大会に参加し、その経験をLOMの事業に活かす例会とすることを目的とします。				

2025/7/5 ～ 2025/7/6	[事 業 内 容]		ブロック出向者が他LOMの会員と連携し活動する姿を見ることで、出向やJC運動への理解を深めることで、これからのJC運動への意欲を高めることに繋がります。	
日 時	[事 業 名]	公益社団法人いわき青年会議所2025年度卒業式		
2025年10月18日	[開 催 場 所]	いわきワシントンホテル椿山荘 3F アゼリア		
	[事 業 種 別]	他1	[公 益 性]無	[対 象 者]関係諸団体、いわきJC正会員、特別会員
	[事 業 趣 旨]	対現役会員:卒業生に対して、これまでいわきJCのために尽力頂いたことへの感謝の意を表し、新たな門出をお祝いするとともに、卒業生からこれまでのJC運動の経験を学び、JCへの想いを受取ることで、新たな組織運営を担う決意を醸成することを目的とします。 対卒業生:いわきJCの会員としての最後の瞬間まで楽しんでもらい、心置きなく卒業していただくことを目的とします。		
	[事 業 内 容]	これまでいわきJCを牽引し、JC運動に尽力くださった卒業生の門出を盛大にお祝いするための卒業式です。卒業生に感謝を伝え、卒業生の想いを受け継ぎ、今後のJC運動に繋げるための重要な機会となります。独自演出を採用し、これまでにない演出で卒業式・感謝ナイトを盛り上げます。		

■ 年間計画の実現と成果

新年会:

現役の会員に関しては、新年会における目的や、今後の運営方針示すことが出来たとの回答が90%以上でした。対内における目標については達成出来たと考えられます。その一方で、運営に重点を置いていたので、他LOMやOBの方々との交流が不十分だったと考えられます。アンケート結果でも93.3%が「よかった」という回答でした。また、「来賓や他LOM、OB会員と十分な交流を図ることができた」との回答が70%、「どちらともいえない」が26.7%であったことから、懇親を深める事については、改善の余地が残る結果となりました。次年度以降、交流を深める手法が課題になると考えられます。
LOMのメンバー全員が一体となって取り組んだことにより、本事業の目的である、運動方針及び組織体制の発信等、当初の目的は果たせた新年会だったと考えます。

4月例会:

目的に達した点

「青年会議所への理解が深まり、青年会議所運動の大切さを理解でき目的をもって参加していきたいと感じましたか。」の問いに対して「感じた」という回答は95.2%という結果でした。

講師の曽根様が目的に合った講演をしていただけただけなのが良い結果の原因と考えます。

講演内容として、まずは一歩踏み出してみよう(挑戦してみよう)という内容で会員や入会候補者の気持ちを鼓舞するような内容でした。また事前のアンケートにより会に対する不満などを事前に調査し、なぜ会員が一歩踏み出せないのか、出席に至らないのかを考察し、活動が活発ではない会員の気持ちになり不安や疑問が少しでもなくなるようにと考え、講演内容に盛り込んだのが共感を得ることができた要因と考えます。

事前アンケート抜粋については、運営面での負担の多さへの不満の意見が目立っていました。

ですが、JCをしていてよかったことは?の意見に関しては回答数も多く、良い意見が多く見られ会の魅力(所属している会員の魅力)はとても良いものがあると考えます。

7月例会:

当例会の目的である「福島ブロック大会に参加し、出向をしているメンバーの姿を見ることで出向への理解を深め、いわき青年会議所の組織力強化する」に対しては、アンケート結果からも、達成出来たと考えられます。また、ブロック出向者が他LOMの会員と連携し活動する姿を見ることで、出向やJC運動への理解が深まったと考えられます。

しかしその一方で、組織力の強化に関しては、例年参加するメンバーが限定的であり、理事やアテンド担当委員会以外のメンバーや、新入会員への参加率が課題として上げられます。より組織力を高めるにはもっと多数の会員の参加が必須となります。今後、ブロック大会へ参加してもらうためにはどうすればよいのかを、より検討を重ねていく必要があります。

そのためにも、金銭的な負担がかからない事業を実施するように、発言力のあるブロック役員を通じてブロック大会の在り方を考えるようにブロック側に意見を述べることで解決の手段といえます。

卒業式:

本事業は、事前の会場打合せおよびリハーサルを実施したことで、卒業式・感謝ナイトともに大きな混乱や進行遅延なく、概ね計画通り実施することができた。卒業式では、卒業生一人ひとりの入場曲の選定や答辞を通じて、それぞれのJC活動の歩みや想いを丁寧に表現することができ、節目として印象に残る式典を実現した。感謝ナイトにおいては、グラスタワーや記念品贈呈などの演出により、卒業生に対する感謝と祝意を視覚的に伝えることができ、会場全体で想いを共有する場となった。アンケート結果からも、現役会員がいわきJCの歴史や誇りを再認識し、今後のJC運動・活動への意欲が高まったとの回答が多く、本事業は組織の結束力を高めるうえで一定の成果を得られた事業であったと考える。

■ 次年度以降へに引継ぎ事項

新年会:

例年、乾杯までが長く来賓の方々やOBからの不満が多かったことから、理事役員紹介や委員会紹介、新入会員紹介を乾杯後に回し、盛大な演出を行うことで、コンパクトながらも飽きさせない工夫を行いました。また、鏡開きをスパークリングワインに変えることで時間の短縮、地元の名産を多くの方々に伝えるいわきJCらしい新しい手法も取り入れました。

参考の「ワインへの変更の反響」にもあるように、この変更が大変好評であったことがわかります。なにより、製造者である会員から直接、起業ストーリーやワイン、地域貢献に対する想いを届けることができたことから、我々の地域に対する想いを伝えることにつながったと考えます。紹介方法のタイミングの変更、乾杯のワインへの変更は今後も継続していく価値があるといえます。大事なものを守りながらも、常に良い

やり方、新しいやり方を探る姿勢が大切だと考えます。

4月例会：

曾根様の講演内容には様々な苦悩やそれをどう乗り越えたかの体験談が多くあり、家業を継ぐ後継者として、JCを本気で取り組んだものとして、子育てをする母としてなど様々な側面からのお話があり、多様な経験から話される内容はとても充実していたと考えます。
地域貢献や課題解決する際の心の在り方など、万人に理解しやすい内容をお話いただきました
又、普段から講演等を良くされているので、こちらからの講演直前のリクエストにもすぐに応えてくれ、スムーズな運営にも繋がりました。
懸念点としては、曾根様は愛知県半田市にお住まいで悪天候等により当日参加できない場合があったと思われる。
遠くに住んでいる方に講師を依頼する場合は会場に来られない場合の対策等を講じる必要があると考えます。

7月例会：

例會会場は、ブロック大会の会場から車で5分ほどの場所に確保したので、移動等に関しては特段問題無かったと考えられます。また、参加人数に対する会場の容量も特段問題無かったです。会場が遠方のため、事前の現地にての調査は出来ませんでしたが、滞り無く例会が行えました。広報計画通り、全体メール、LINEでの案内を行いました。周知という観点においては問題考えられますが、直接的な声かけが1番効果的であると考えられます。早期に各委員長や知り合いの会員から直接電話をしていただき出席を促していくことで今後の出席率向上につながると思います。

卒業式：

卒業式・感謝ナイトは参加人数や関係者が多く、準備段階で事業の完成度が大きく左右される事業である。そのため、出欠確認の締切日を明確に設定し、締切後は速やかに実施組織図および役割表を修正・確定し、関係者全員に再共有することを必須事項として引き継ぐ必要がある。また、当日の混乱を防ぐため、委員会内だけでなく、司会・介添人・誘導係など役割を担う会員全員を含めた事前リハーサルを必ず実施することが重要である。さらに、卒業生およびOB会員の参加率向上には、開催案内にとどまらず、年度初めから卒業予定者を把握し、事業趣旨を早期に共有するとともに、日常的なOBとの関係構築を図ることが不可欠である。これらを徹底することで、より多くの想いが集い、世代を超えた交流が生まれる事業へと発展させていくことが期待される。

■ 委 員 長 所 見

新年会：

本年度の新年会はOBなどからの『例年乾杯までの時間が長い』『歓談時間が短い』などの意見をいただき出席していただく方が気持ちよく時間を過ごし、いわきJCをこれから応援しようと思っていたく事を目標に、鏡開きの廃止や役員紹介を中締め前に行う等の工夫をいたしました。また、来訪される他LOMの方々にいわきの魅力を知ってほしいと乾杯酒を地元ワインの梨スパークリングワインといたしました。ヒアリングをした結果出席された方には乾杯までの時間を短縮した事、鏡開きを無くした事、乾杯酒を地元ワイナリーのものを提供した事など高評価な意見が多数でした。目標は達成されたように感じましたが
会費を上げたのに料理の質が落ちている、鏡開きを無くしてしまったことによって新聞社などが写真を撮る場所が少なくなってしまった等の意見がありましたので会場選定や新聞などへの広報を考慮した設えが必要と考えます。
この報告議案書により、次年度の新年会が関係諸団体とより良好な関係を築き、我々いわきJCが社会により良い変化をもたらす団体だと認識していただける様な新年会になることを期待しています。

4月例会：

本例会は私自身が入会当初に不安や疑問があっても誰にも相談できず悩んでいた事があり、それからしばらくJC活動をしていると他の会員も当初同じ悩みを抱えていたことに気づき、歴の浅いまたは入会候補者時点で不安な気持ちを少しでも取り除く例会が必要と思い、本例会の内容を構築いたしました。
いわきJCはこれまでに地域に様々な良い影響をもたらす運動をしてきました、ですが近年会員数の減少などにより一人に対する負担が大きくなり会員の士気の低下が出席率等に表れていると考えます。
まずは会員がやりたいと一歩踏み出せる環境づくりが大切と考えます。
組織の運営面で議案書作成の不満や、組織が何をしているかわからない等の意見が目立つので、それを解決するセミナーを定期的に行うことや、組織の運動・活動の意味が、まずは対内に広く伝わる仕組みや行動が重要と考えます。
デジタルツールなどを有効活用し組織運営の省力化や透明化に努め、本来の使命であるまちづくりやひとづくりに集中出来るような環境作りが必要と考えます。
良い環境になれば良い会員が増え、いわきJCが繁栄し、故郷の発展に繋がると考えます。
来年、再来年とよりよい運動を起こせる団体となれることを期待しています。

7月例会：

ブロック出向組を応援する形となった事業となりましたが、いつもと違う地域で例会を行うことで新鮮さを感じることに繋がったと考えます。ブロックの委員長を輩出していることから、組織連携委員会の事業に参加を促すことができましたため、参加したメンバーにはLOMではかかわることがなかったであろうブロックのメンバーと触れ合うことで、JCの規模の広さを体験することができました。しかしながら、多くのメンバーの参加ができませんでした。その一因には、若いメンバーが多くなったことから、登録料や宿泊費などの金銭的な負担で参加が難しくなったのではないかと考えます。メンバー規模の大きいいわきJCだからこそ、金銭的負担を減らす事業を実施するよう、声を上げることができる出向者、代表者が行動を起こす必要があるといえます。この報告議案から本年度、次年度ブロックを変えることができるメンバーが行動を起こし、参加しやすい体制に変わることを期待しております。

卒業式：

本事業は、卒業生に対する感謝の意を表すとともに、現役会員がいわきJCの歴史や想いを継承する重要な機会であったと感じています。式典や感謝ナイトを通じて、卒業生が歩んできたJC活動の重みや価値を改めて認識し、組織としての一体感を高めることができました。
一方で、OB会員や卒業生の参加率、当日の人員配置変更など、運営面での課題も明確になりました。これらの課題は、事前準備の精度向上や早期の情報共有、日常的なOBとの関係構築によって改善できるものであり、次年度以降の発展につながる学びであると前向きに捉えています。
卒業式・感謝ナイトは、いわきJCの「誇り」と「歴史」を次代へつなぐ象徴的な事業です。本年度の反省点と成果をしっかりと引き継ぎ、今後はより多くの卒業生・OBが集い、世代を超えて想いを共有できる事業へと発展していくことを期待しています。本事業が、いわきJCの結束力を高め、持続可能な組織運営の礎となることを願い、委員長所見といたします

2025年度 委員会年間活動報告書

■グループ名	ひとつくり		■副理事長	佐藤 稔久	
■委員会名	ひとつくり委員会			■委員長	柏 義男
■副委員長	木村 俊太郎			■副委員長	大滝 真優
■運営幹事	吉田 智徳			■会計幹事	地引 勇太
■委員	小澤 楓	大平 廉	北嶋 裕介	熊田 舞弥	櫛田 伊一郎
	高木利記	山口 宗之			
■委員会の設置背景 いわきの明るい未来を築いていくために必要となってくるのが、未来を担う子どもや若者達を地域で活躍する人財へと成長できるような環境です。昨今、デジタルテクノロジーの進歩は目覚ましく、日々社会に変化が起きていますが、現在のいわきにおいてその変化の早さに十分対応できているとは言えず、子どもたち将来に対し幅広い選択肢を与えることができていません。また地方自治について、選挙権年齢が引き下げられたことで意見は伝わりやすくなりましたが、年代別投票率を見ても、若者にとってまだまだ選挙に関心が寄せられていないのが現状です。いわきの未来をより良いものにしていくためには、子どもや若者に対し、論理的思考力や想像力を磨く機会をつくり、自身の未来の選択肢に対し積極的に考えることができる人財を育成する必要があります。					
■委員会の目的 ①子どもたちの論理的思考力や想像力を養う機会の創出 ②若者にまちづくりに対しての興味関心の向上と参画する機会の創出					
■委員会基本方針 ① 青少年が成長するための機会の創出 ② 地域を牽引するリーダーの育成 ③ 青少年を取り巻く環境の調査・研究・発信 ④ 青少年の興味関心を高める事業の企画・運営 ⑤ 市民に主権者意識を醸成させるための事業の企画・運営 ⑥ 社業に繋がる活動 ⑦ 会員拡大につながる情報の収集と拡大推進アカデミー特別室と連帯した拡大活動の推進					
■開催事業					
日時	[事業名] 公益社団法人いわき青年会議所2025年度5月例会及び青少年育成事業「ジュニアカーリングフェス～めざせ未来のプログラマー！～				
2025年5月25日	[開催場所] いわき産業創造館				
	[事業種別]	公2	[公益性]	有	[対象者] いわき市民、いわき市内の小学校4～6年生、小学生の保護者、いわきJC正会員、特別会員
	[事業趣旨] 市内小学校4～6年生を対象にしたプログラミング体験事業を開催します。 本事業はプログラミングをとおして子どもたちの論理的思考力と問題解決能力を開発・育成すること、大人たちに子どもたちのそれらの能力開発の重要性を理解してもらうことを目的とします。				
	[事業内容] 3ブースを設け、子どもたちにプログラミングを体験してもらいます。 ① プログラミングカーリング大会ブース ② プログラミングカーリング練習・体験ブース ③ Scratch体験教室ブース				
日時	[事業名] いわき市長選挙公開討論会2025～君の意見を未来の市長に届けよう～」事前意見・および参加者募集計画				
2025年4月28日 ～ 2025年6月30日	[開催場所] 無				
	[事業種別]	公2	[公益性]	有	[対象者] いわき市内の高校2・3年生
	[事業趣旨] 若者のまちづくりに対する興味関心を深め、積極的な政治参加の姿勢を身につけてもらうことを目的とします。市内の若者に政治参加の姿勢を身につけてもらうために、いわき青年会議所のメンバーがまず率先して参加する意識を養うことを目的とします				
[事業内容] 市内在住の高校生2年生および3年生から立候補予定者に対する質問と討論会運営参加者を広く募集いたします。募集方法としては各高校へのチラシの配布を行います。 公開討論会高校生運営スタッフには公開討論会での質問を設定や当日の質問事項な発表などをしてもらう予定です。その為参加者には公開討論会までに市長選に対しての理解を深める期間が必要であると考えます。参加者の募集を事前に行い、十分な事前研究期間を設けることで、適切な質問の選定と円滑な討論会の運営がなされるよう事前の取り計らいをします。					

日 時	[事 業 名] いわき市長選挙公開討論会2025～君の意見を未来の市長に届けよう～」事前意見・および開催計画					
	[開 催 場 所] 健康福祉プラザいわきゆったり館 ボランティア研修室大					
	[事 業 種 別]	公2	[公 益 性]	有	[対 象 者]	いわき市民 いわき市内在住の高校生 保護者 いわきJC正会員、いわきJC特別会員
2023年1月1日 ～ 2023年8月31日	[事 業 趣 旨]	いわき市長選挙が開催されるにあたり、候補者のビジョンや政策について市民の関心を高める必要があります。各候補者の政策を市民に対して示す機会を創り、かつこれから選挙権を持つ若い世代、特に高校生の、将来の市政の方向を見極める積極的な姿勢を広く知ってもらうことで市民全体の政治参画意識を向上させるべく、本事業の計画に至りました。 若者のまちづくりに対する興味関心を深め、積極的な政治参加の姿勢を身につけてもらうことを目的とします。市民全体の主権者意識を醸成します。 市内の若者に政策本位での政治参画を意識づけることでJAYCEEとして地域をけん引する意識を醸成することを目的とします。				
	[事 業 内 容]	いわき市長選挙立候補者の公開討論会の開催 高校生参加スタッフの参加補助 公開討論会の録画・公開				

■ 年間計画の実現と成果

公益社団法人いわき青年会議所2025年度5月例会及び青少年育成事業「ジュニアカーリングフェス～めざせ未来のプログラマー！～

【目標①】

小学生の参加人数60名以上並びに事業後に実施するアンケートで「自分で問題を解決したり、よく考える力がついたと思いますか」の設問に対し「思う」の回答が70%以上

【結果】

参加児童数は42名であったため目標人数には届きませんでした。アンケート設問3「自分で問題を解決したり、よく考える力がついたと思いますか」への回答では、「思う」が75%となり、設定した目標を達成しました。

【目標②】

いわきJC正会員を対象に事業後に実施するアンケートで「自発的な能力開発の重要性を感じることができた」の回答が80%以上

【結果】

アンケート設問4「自発的な能力開発の重要性を感じることができたか」に対し、「できた」という回答が100%でした。本結果から目標②を達成することができました。

「いわき市長選挙公開討論会2025～君の意見を未来の市長に届けよう～」事前意見・および参加者募集

【目標】

質問応募件数 50件 運営参加者20人の達成度合いで評価。

【結果】

質問応募件数 4件

運営参加者募集人数 10人7月例会開催計画：

質問応募3件、運営参加者10名と目標に大きく届かない結果となりました。改善すべき点としては、まず広報手段の限られた点が挙げられます。SNSとチラシ配布のみでは若年層への訴求が弱く、特に高校生が関心を持ちやすい動画やショートコンテンツなどの媒体を活用できなかったことが課題です。

「いわき市長選挙公開討論会2025～君の意見を未来の市長に届けよう～」開催

【目的①】

公開討論会運営スタッフに対するアンケートにて「市政への興味関心が深まった」という回答が90%以上

公開討論会運営スタッフに対するアンケートで「主権者として今後も政治に参画する意欲がある」との回答が90%以上

公開討論会アーカイブ再生回数10000回以上

公開討論会を視聴した市民に向けたアンケートにて「市政への興味関心が深まった」という回答が90%以上

【結果】

「市政への興味関心が深まった」という回答が100%

「主権者として今後も政治に参画する意欲がある」との回答が100%

Youtubeアーカイブ視聴回数5171回

公開討論会を視聴した市民に向けたアンケートにて「市政への興味関心が深まった」という回答が53.8%

スタッフとして参加した高校生は、市長候補者討論会に参加することで積極的な有権者意識の醸成へとつながったと考えられるが、市民に向けての動きが薄弱であったと考察できます。まずは公開討論会を視聴してもらえるように誘導するようなコンテンツの提供、そしてわかりやすい動画構成など市民が興味を持ちやすい構造にすることが肝要であったと考えられます。視聴者アンケートでは市政への興味関心が深まったという回答が目標に対し約40ポイント到達しないなど、この点からも市民の興味関心を煽りづらい運動となっていた点も反省し、次回以降の運動につなげていきたいと考えます。

【目的②】

対内：対内アンケートを実施し、「若い世代の政治参画へと導くこと の重要性が理解できた」との回答が90%以上

【結果】

公開討論会を視聴した市民に向けたアンケートにて「市政への興味関心が深まった」という回答が100%

■ 次年度以降へに引継ぎ事項

公益社団法人いわき青年会議所2025年度5月例会及び青少年育成事業「ジュニアカーリングフェス～めざせ未来のプログラマー！～

次回開催以降の引継ぎ事項として、①参加者募集については、市内小学校でのチラシ配布が最も効果的であったため、今後も主要な広報手段として継続することが重要です。一方で、SNSや公式HP、報道機関による告知は直接的な参加促進にはつながらなかったため、②報道機関への依頼は文書送付のみに留めず、担当者が直接訪問し事業内容を説明するなど、周知方法の見直しを行う必要があります。③事業当日の運営については、会場の設備や通信環境に問題はなく、円滑に実施できたことから、同規模事業であれば同会場の継続利用が可能です。④当日は撤収作業が想定より早く完了し、例会開始時刻を繰り上げるなど柔軟な対応ができたため、次回以降も状況に応じた進行調整を行うことが望まれます。⑤参加児童数は目標に達しなかったため、募集時期や告知方法を検討するとともに、事業後アンケートの結果を活用し、事業内容や進行方法の改善につなげていきます。

用し、事業内容や進行方法の改善につなげていくこと。

「いわき市長選挙公開討論会2025～君の意見を未来の市長に届けよう～」事前意見・および参加者募集

次回開催以降の引継ぎ事項として、①参加者募集および質問募集については、各高校を通じたチラシ配布と教員からの推薦が応募の主な契機となっていたため、学校との連携を継続し、配布方法や時期を整理したうえで実施することが重要です。②質問募集はWEBフォームを活用したことで、投稿や集計が円滑に行えたため、同様の形式を継続してください。③対象者については、実施途中で高校1年生も含めた募集に変更した結果、応募があったため、次回以降も学年を限定せず市内在住高校生を対象とすることが可能です。④運営スタッフへの連絡に時間を要したため、募集段階で大きなスケジュールを設定し、事前に共有する必要があります。⑤広報については、応募者の多くが教員経由で参加していたことから、SNSやHPのみの告知では不十分であり、報道機関への依頼方法も含めた広報手法の整理が必要です。

「いわき市長選挙公開討論会2025～君の意見を未来の市長に届けよう～」開催

次年度以降への引継ぎ事項として、以下の点を整理いたします。①広報手法については、市内高校へのチラシ配布や教員を通じた周知が高校生スタッフ確保に最も効果的であったため、今後も学校との連携を軸とした広報を継続することが重要です。一方で、SNSやホームページのみでは市民への波及が限定的であったため、短尺動画の活用や分かりやすい構成によるWEB広報の強化が求められます。②日程設定については、選挙告示日前で関心が高まりやすい時期を選定できた点は有効でしたが、お盆期間と重なったことで調整面に制約が生じたため、今後は地域行事や季節要因を十分に考慮する必要があります。③会場については、立地・設備・動線のいずれも適切であり、同規模事業においては継続利用が可能です。④駐車場の確保については事前に施設側と調整することが望まれます。⑤高校生が主体となる運営は事業目的の達成に大きく寄与したため、質問作成や進行への主体的な関与を今後も重視すべきです。⑥動画配信は来場できない市民への有効な情報提供手段となりましたが、字幕作成等の作業負担が大きかったことから、制作スケジュールおよび体制の見直しを行う必要があります。

■ 委員長所見

公益社団法人いわき青年会議所2025年度5月例会及び青少年育成事業「ジュニアカーリングフェス～めざせ未来のプログラマー！～

本事業は、情報化社会における基礎的なICTリテラシー習得を目指し、青少年にプログラミングの基礎を体験させる事を目的として実施しました。参加者はプログラミングカーリングやscratchを用いた演習を通して、論理的思考力や創造力、問題解決能力を身につける貴重な機会となりました。特に自らのアイデアを形にする経験が、子供たちの自身や学びの意欲につながっている様子が見られました。実際に参加した児童の多くは、予想以上に積極的に取り組み、自らのアイデアを形にする喜びを感じていました。今後は、プログラミングが創造性や論理的思考力、更には将来の進路選択にどのように結びつくのかを、保護者や教育関係者を含む地域全体に向けて継続的に発信する必要があります。また、学校や地域メディア、企業などと連携した広報活動や啓発イベントを通じて参加意欲の喚起を図ることが望まれます。

「いわき市長選挙公開討論会2025～君の意見を未来の市長に届けよう～」事前意見・および参加者募集

本事業は「募集議案」として、より多くの意見や参加者を募ることを目的として実施されました。運営面においては、全体の進行が滞りなく行われた点は評価できるものの、質問件数および運営参加者数が当初の目標を下回る結果となりました。このことから、十分な広報活動が行き届かなかった可能性が考えられます。

今後は、募集期間の設定や広報手段の工夫を図ることで、より多くの高校生に参加を呼びかけ、関心を高めていくことが求められます。次年度以降は、広く意見を集め、市民にとってより実りある公開討論会を実現できるよう、一層の改善と工夫が必要であると考えます。

「いわき市長選挙公開討論会2025～君の意見を未来の市長に届けよう～」開催

本年度の公開討論会は、8月17日に予定通り開催され、多くの取材陣にもご参加いただき、盛況のうちに終了いたしました。準備段階から開催当日までは概ね順調に進行し、候補者の皆様による建設的な議論を通じて、市民の政治参加意識の醸成という目的も果たせたと考えます。一方で、動画公開に向けた編集作業や字幕対応に予想以上の時間を要し、スケジュール管理に課題が残りました。WEB開催という形態は結果的に、来場制限下でも多くの市民に情報を届けられる手段として非常に有効であり、今後の展開にも活かせる成果となりました。また、高校生の積極的な参加を含め、多世代の市民が政治に関心を持つきっかけとなった点も大きな意義であり、意識変革の場として有意義な事業であったと総括いたします。

【総括】

2025年度に実施した各事業を通じ、いわき青年会議所は青少年育成において「体験を通じた学び」と「主体性を引き出す場づくり」を重視した一年となりました。ジュニアカーリングフェスでは、プログラミング体験を通して論理的思考力や創造力を育む機会を提供し、子どもたちが自ら考え、試行錯誤しながら形にする喜びを実感する姿が見られました。これは、知識の習得にとどまらず、学ぶ意欲や自己肯定感を高める有効なアプローチであったといえます。

また、市長選挙公開討論会においては、高校生が意見を考え、参加し、社会課題に触れる機会を創出することで、主権者意識や社会参画への関心を育む取り組みを行いました。討論会の企画段階から若い世代を関与させたことで、政治やまちづくりを「自分事」として捉える視点を醸成することができました。

これらの事業を通じて、青少年が主体的に関わり、体験から学ぶ場を提供することが、将来の可能性を広げる基盤づくりにつながることを確認できた一年であり、今後も地域全体で青少年の成長を支える取り組みを継続していく意義を再認識する機会となりました。

2025年度 委員会年間活動報告書

■グループ名		■副理事長		草野祐介			
■委員会名		まちづくり委員会		■委員長		遠藤勝弘	
■副委員長		俣田辰寛		■副委員長		草野潤	
■運営幹事		小笠原慶		■会計幹事		有馬悠二	
■委員	永山竜視	柏果穂	佐藤辰哉	鈴木篤	小林豊		
	遠藤昌希	山内健					

■委員会の設置背景

①今までいわきJCが掲げてきた「共創のまちづくり」を継続していくためにも、市民自らがまちづくりに参加しやすい行動しやすい環境を整え、市民を巻き込むことでまちづくりに対し当事者意識の醸成に繋げ上げていく必要がある。

②広域都市であるいわき市は、災害発生時には災害発生地域とその他地域の災害に対する意識の差が生まれやすい傾向があります。自助共助の意識を持ち有事の際能動的に動くためには、災害発生地域に対し対岸の火事とせず常に防災・減災の意識を持ち続ける必要がある。

また、いわきJCは、いわき市社会福祉協議会やいわき市と災害支援協定を締結してから幾多の困難を乗り越えた経験があり災害時に柔軟かつ臨機応変な対応をして行く為にも関係団体との構築してきた関係を継続し強化していくこと、また地域から信頼される組織であり続けるために率先して行動できる組織になる必要がある。

■委員会の目的

①地域全体で共通の目標を持ち、いわきに暮らす人々がまちづくりに参加したくなるシンボルの深化に繋がるまちづくりを目指す。

②これまでの災害時の経験を活かし、有事の際に率先して能動的に行動できる組織運営を目指す。

■委員会基本方針

① 他委員会と連携した会員拡大活動、拡大につながる情報のとりまとめ

② 新入会員オリエンテーションの企画・運営

③ 会員資格審議委員会との連携による組織力の向上

④ 会議・委員会と連携した情報の発信

⑤ いわきJCホームページ・公式SNSの運用および管理

⑥ WEBを活用した情報発信の調査・研究・検証

⑦ 会員拡大につながる情報の収集と共有および拡大活動

⑧ 社業に繋がる活動

■開催事業

日 時	[事業名] 2025年度災害対策組織図					
2025年1月1日～ 2025年12月31日	[開催場所] なし					
	[事業種別]	報告	[公益性]	無	[対象者]	正会員、特別会員、いわき市危機管理部、いわき市社会福祉協議会
	[背景、目的] 有事の際に、利他の精神を持ち、迅速かつ適切な行動を取れるよう、各自が自身の役割を理解することを目的とした。					
	[事業内容] 2025年度に運用できる災害組織図に更新した。					

日 時	[事業名] 災害支援協定に基づく、行政や関係団体との連携					
2025年3月21日	[開催場所] いわき市文化センター 中会議室(1)、(2)					
	[事業種別]	他2	[公益性]	無	[対象者]	対外対象者:いわき市危機管理部、いわき市社会福祉協議会 対内対象者:いわきJC会員・特別会員
	[背景、目的] 本例会では、発災時にスムーズな支援体制を構築するべく災害時の支援協定を結んでいる相互団体とこれまでの協定内容や連携について再度確認共有した。 協定当初を知らないいわきJC会員の防災減災への意識醸成につながり、また一緒にHUG訓練を行うことで協定関係団体との顔の見える関係性の構築に繋がりがり発災時の連携強化に繋がる。 また、災害発生後に求められる初動について振り返り、そこから私たちにどんなことが求められるのかを共有することが目的。					

		を共有するこども目的としている。		
	[事業内容]	第一部では、まちづくり委員会で発災時におけるいわきJCの動きの流れ、いわき市の動きの流れ、いわき社会福祉協議会の動きの流れに関して分析をした内容の発表を行い参加者に共有した。 また災害協定内容についても振り返り、私たちにどんなことが求められるのかを共有した。 第二部ではカードゲームのHUG(避難所運営ゲーム)をいわきJC会員並びにいわき市危機管理部・いわき市社会福祉協議会の方々と体験することで災害時の対応を学び関係各所とともにカードゲームを体験し互いの関係をより深めることとした。		
日時	[事業名]	第5回イルミエールいわき		
2025年6月26日～ 2026年1月12日	[開催場所]	JRいわき駅前大通り、ペDESTリアンデッキ、JR湯本駅前、内郷(いわき泌尿器科裏 新川沿い桜並木)、小名浜(アクアマリンパーク)、JR泉駅前(照島のモニュメント)、四倉(道の駅)、勿来		
	[事業種別]	公1	[公益性]	有
	[対象者]	いわきJC会員・特別会員・いわき市民		
	[背景、目的]	過去4回開催され冬のいわきの風物詩になりつつあるイルミエールいわき、まだ多くのいわき市民にいわきの魅力として周知発信されていない課題があるため、いわき市民がいわきのシンボルとして認識し能動的に周知発信していくことが必要。 対外としては、「第5回イルミエールいわき」の開催趣旨を理解してもらい、協力関係団体を募るとともに、協賛を市民・団体・企業を募りことを目的とした。 対内としては、「第5回イルミエールいわき」の開催趣旨、協力開催していく意義を理解していたうえで、多くの会員に参加・協力して頂くことを目的とした。		
	[事業内容]	広報：SNSアカウントの作成・運用 / 協賛活動用チラシの作成・配布 LED設置：連携団体とのLED設置 点灯式・副事業：HoiHoiVISIONを活用した連携先プロモーション動画の放映 / ほこみちと連携し飲食店の出店企画、いわき市内3校を巻き込んだイルミネーションオブジェ、市内小学1校・中学1校の吹奏楽による演奏、フォトコンテストの開催		

■年間計画の実現と成果
年間計画：概ね年間計画に沿って実施することができましたが、第5回イルミエールいわきの設置並びに予算に関する議案が9月理事会で審議が取れず、第2回臨時理事会を行ったこと。点灯式開催計画並びに予算に関する議案も、第3回臨時理事会にて審議を取り若干の予定の変更があった。 災害対策組織図：所属するいわきJCの強みを活かした組織図を制作することが出来た。 3月例会：協力団体が発災時にいわきJCに対して何を必要としているのか確認が出来た。 また、カードゲームでは新会員も含め災害に対して学ぶことができ、支援協定先も参加いただいたことから顔が見える関係性づくりが出来た。 イルミエールいわき：例年通り、外部業者にも委託しSNS中心の告知を行った。 また、いわき駅前のイルミネーション点灯範囲を広げ対前年より拡大した。ただ、例年と集まった人口はあまり変わらなかった様に感じた。 今後も同じ事業を行うことを考えるのであれば、もう少し工夫・仕掛けが必要であると考えられる。

■次年度以降へに引継ぎ事項
次年度以降の災害対策を更に強化する事としては、会員の役割を更に細分化して行くことが重要だとkンが得ます。まずは、状況(家族、仕事、JC活動への積極性)をしっかりと把握し実際の災害があった際も実効性が高くなることを考えること。それを踏まえた上で、個々の意思確認に基づき、対応可能な体制を精査すること。 イルミエールいわきは、市民のまちづくりへの意識向上を目指し、市民の声を取り入れた事業展開が不可欠。 引き続き事業の目的や主催団体を周知するため、SNS、HP、メディアを活用した広報活動を展開し、市民の認知度を高め、興味関心を喚起することを検討していくこと。 まちづくり委員会は、行政や関係団体との連携を強化するため、次年度の委員長も継続的な連携を図り、事業の持続性を確保すること。 アンケートに加え、身近な人々へのヒアリングを通じて、より市民に寄り添ったまちづくりをすることが改善の近道。

■委員長所見
当委員会は、市民のまちづくりへの意識向上と、災害に強いJCの構築を目指し活動し 災害支援協定先や他団体との連携強化、イルミエールいわきを通じた魅力創出を重点に置いてきた。 3月の例会では、防災教材カードゲームで災害時の行動を共有し、専門家との協働で知識を深めた。 イルミエールいわきでは、対前年を意識し参加促進とシンボルとしての発展を目指したが、点灯数の減少やコンセプト発信の不足など課題も残った。今後は、イルミネーションの意味や必要性の周知、多媒体を活用した情報発信を強化することを重要と考える。 災害対策組織図の更新には、組織の重要性を再確認し、役割分担者へのヒアリングを実施していくことが必要。 これらの取り組みを効果的に展開するため、JC事業の必要性を市民へ発信し、連携団体とのコミュニケーションを密にし、市民意見に意識を持つこと。 会員の役割を再認識し強化することで、市民参加と地域貢献を促進し、災害対策とまちづくりの基盤を強化することが出来る。